

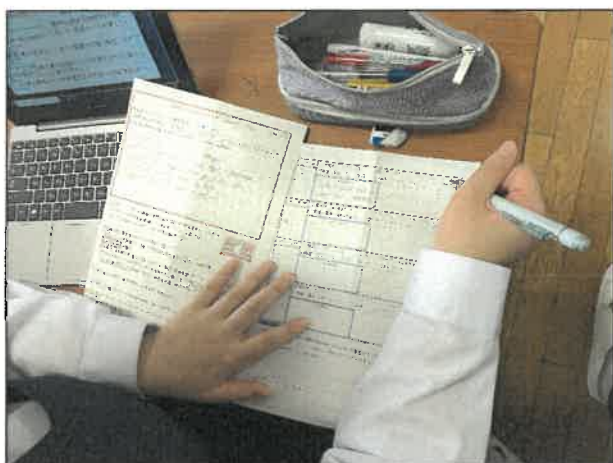
令和4・5・6年度 大野城市教育委員会研究指定・委嘱校

研究紀要

研究主題

生徒の主体的な学習活動を促す指導

～「わかった・できた」を実感できるICTの活用と振り返りの充実を通して～



大野城市立御陵中学校

令和6年11月19日（火）

はじめに

令和2年3月、全国的に新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされ、全ての学校が休校となったことをきっかけに一気に GIGA スクール構想の構築化が加速しました。一人一台端末普及に対して、全力を注いでいただいた各市教育委員会の皆様には、感謝申し上げます。

我々教職員も試行錯誤しながら、Teams 等を用いて職員研修を積み、オンライン授業の方法やロイロノート等の活用方法など様々な研修に励むとともに、生徒の学力保障に取り組んできたコロナ禍だったことと思います。

中央教育審議会からは、「令和の日本型学校教育」の姿である「個別最適な学び」「協働的な学び」という2本の柱の下、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を図っていく必要があると述べられています。

本校は、令和4年、依然としてコロナ禍ではありましたが、大野城市教育委員会から研究指定・委嘱をいただき、研究主題『生徒の主体的な学習活動を促す指導』副主題を『「わかった・できた」を実感できる ICT の活用と振り返りの充実を通して』とし、研究をすすめてまいりました。

具体的には、3年間試行錯誤しながら、「書く活動」や「交流活動」を取り入れた振り返りの充実や ICT の効果的な活用ができれば生徒は、既存の知識をもとに、新たな知識や技能を適用させ、自己の考え方を付加・修正・強化していくことができる。それによって、課題解決に向けて粘り強く取り組み、生徒は、「わかった・できた」を実感できる主体的な学習を促すことができるであろうと考え、ここまで取り組んでまいりました。

本日は、御参会の皆様方からいただいた貴重な御指導や御助言を受け止め、今後の教育活動の実践に向けて努めてまいります。

結びになりましたが、本研究の推進にあたり、御指導・御助言をいただきました福岡教育事務所並びに大野城市教育委員会をはじめ、本日まで御指導いただいた筑紫地区中学校の諸先生方や講師の先生方に深く感謝申し上げます。また、このような貴重な機会を与えていただいた大野城市教育委員会、さらに御支援をいただいた大野城市副校長・教頭会並びに PTA 役員の皆様に対しましても心より厚くお礼申し上げます。

令和6年11月19日

大野城市立御陵中学校
校長 國分 慎二

研究発表会日程

1 期 日 令和6年11月19日(火)

2 日 程

受 付	開会行事	①公開授業	②協 議 会	③講 演	閉会行事
13:15~13:30	13:30~14:00	14:10~15:00	15:15~15:45	15:55~16:35	16:35~16:45
玄関等	多目的室	教室等	教室等	体育館	体育館

3 開会行事(13:30~14:00)

- ・挨拶 大野城市立御陵中学校 校 長 國分 慎二
- ・研究構想 大野城市立御陵中学校 研究主任 末次 利恵

4 公開授業(14:10~15:00)

学年・組	会 場	教 科	単元・主題名	授業者
1年1組	音楽室	音楽科	イメージをもたらしている映画音楽の秘密を探ろう	瀬谷 亮子
1年2組	木工室	技術科	木材を用いた製作品の設計・製作	今福 豊久
1年3組	1-3	数学科	比例と反比例	田中 智洋
2年1組	2-1	社会科	戦乱から全国統一へ	佐藤 晃輔
2年2組	第2理科室	理 科	電流と電圧の関係	呑山 真基
2年3組	2-3	家庭科	住生活「災害への備え」	鷲 朝菜
3年1組	3-1	国語科	いにしえの心を受け継ぐ 「お気に入りの一首をみつけよう」	園田 克利
3年2組	3-2	外国語科	Unit5「A Legacy for Peace」	田中 雅乃織
3年3組	体育館	保健体育科	球技「バドミントン」(スマッシュ)	藤井 隆史
特別支援学級 (知的)	調理室	自立活動	先生や友だち、家族に喜んでもらえるような 「おにぎらず」をつくろう	日原 洋一

5 研究協議会(15:15~15:45)

分科会	会 場	指導助言者		進 行
国語科	3-1	大野東中学校 教 諭	松 尾 紀 子 先生	安元 雅子
数学科	1-3	春日西中学校 教 頭	仲 矢 龍 介 先生	中森 文博
社会科	2-1	大野中学校 教 頭	森 本 康 資 先生	清水 凜
理 科	第2理科室	大野東中学校 主幹教諭	小 峠 博 亮 先生	緒方 一也
外国語科	3-2	市教育委員会 総括指導主事	山 川 周 作 先生	後藤 賢次郎
音楽科	音楽室	春日西中学校 主幹教諭	佐々木 保 高 先生	末次 利恵
技術科	木工室	大野東中学校 教 諭	山 内 瑛 二 先生	今福 豊久
家庭科	2-3	大野東中学校 教 諭	山 川 真紀子 先生	鷲 朝菜
保健体育科	3-3	市教育委員会 主幹指導主事	平 井 源 樹 先生	真子 幸太郎
自立活動	おおぞら	大利中学校 教 頭	村 岡 陽 子 先生	黒崎 紗希

6 講演(15:55~16:35)

会 場	演 題	講 師
体育館	「生徒の主体的な学習活動を促す授業づくり」	福岡県教育庁福岡教育事務所 教育指導室 主任指導主事 永松 亜希子 様

7 閉会行事(16:35~16:45)

- ・挨拶 大野城市教育委員会 教 育 長 伊藤 啓二
- ・連絡 大野城市立御陵中学校 教 頭 岩本 義忠

目 次

- はじめに
- 日程
- 目次

I 研究の概要

1. 主題・副主題の意味	1
(1)「主体的な学習活動」とは	
(2)「わかった・できたを実感できる」とは	
2. めざす生徒像	3
3. 研究仮説	3
4. 研究構想図	4
5. 研究組織・計画	5
6. 成果と課題	6

II 研究の実際

令和4年度の研究	7～12
・令和4年度研究の概要	
・令和4年度実践例【数学科】	
令和5年度の研究	13～19
・令和5年度研究の概要	
・令和5年度実践例【数学科】	
令和6年度の研究	20～24
・令和6年度実践例【保健体育科】	

- 指導・助言者一覧 主な引用・参考文献
- 研究同人
- おわりに

○ 挨拶 大野城市立御陵中学校 校長 國分 慎二

○ 研究構想について 大野城市立御陵中学校 研究主任 末次 利恵

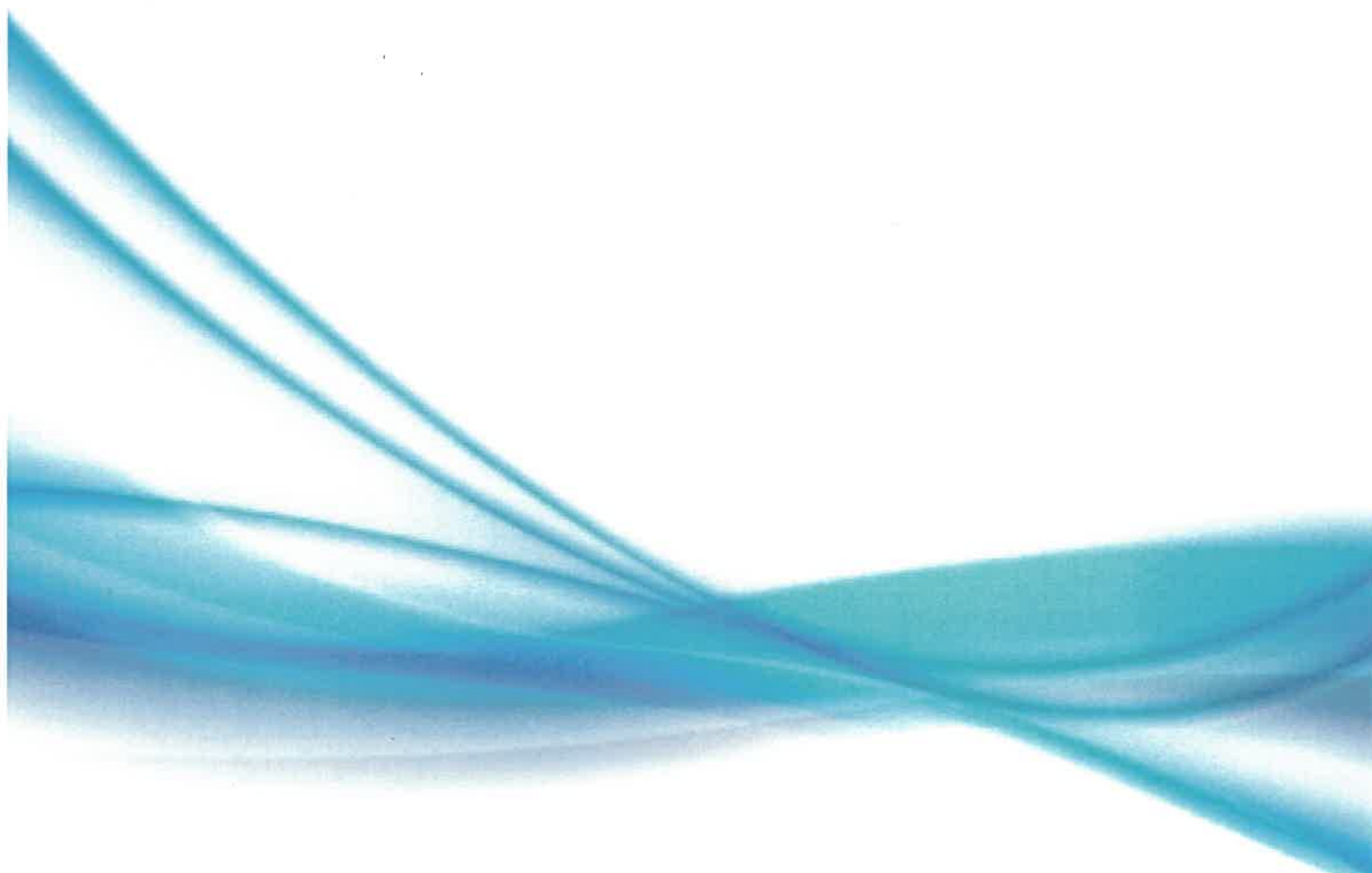
生徒の主体的な学習活動を促す授業づくり

講師 福岡県教育庁福岡教育事務所 教育指導室 主任指導主事 永松 亜希子 先生

○ 挨拶 大野城市教育委員会 教育庁 伊藤 啓二

I

研究の概要



生徒の主体的な学習活動を促す指導

～「わかった・できた」を実感できる ICT の活用と振り返りの充実を通して～

I 研究主題及び副題の意味

(1) 主題の意味

中学校学習指導要領においては、「主体的」を、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげていく姿と示している。

本研究がめざす生徒として、「主体的に学習へ取り組む生徒」を、既存の知識をもとに、課題を設定し、知識や技能を適用し、自己の考えを付加・修正・強化し、課題解決に粘り強く取り組むことができる生徒とする。

そこで、本研究では、「主体的な学習活動」を次のように定義する。

課題解決に向けて粘り強く取り組み、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していくことで、創造的思考を働かせたり、教科のよさを見いだしたりする活動

「創造的思考」とは、問題を解決する際に過去の経験や既存の知識だけでは解決できない場合に、すでにもっている知識を活用し、新しい見方・考え方を生み出したり、新たな知識を身につけたりするときに必要な力である。

「教科のよさを見いだしたりする活動」とは、表現や処理などの基本的な知識を各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを交流したりする活動である。

「促す指導」とは、生徒が主体的に活動することができるように、どの教科でも統一した ICT の活用や振り返りの場の設定を行い、わかった・できたを実感できるように指導していくことである。

(2) 副題の意味

中学校学習指導要領において、「確かな学力」とは、知識や技能はもちろん、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、より良く問題解決する資質や能力等まで含めたものであるとしている。近年の中学生は、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて課題があると指摘されており、全国的・国際的な学力調査では、学ぶ意欲や判断力、表現力に課題があるとされている。

主体的な学習の中核をなすものは、「あれは何なのだろう」「どうなっているのだろう」「なぜこうなのだろう」「こうするにはどうしたらいいのだろう」という生徒の思考である。生徒がこのような「思考」ができるように考えを方向付けたり、広げたり、焦点化したりする。それらは、生徒にすべてを任せるのではなく、教師の専門的な目によって選び抜かれた問題や発問によって、生徒がよりよい思考を自然とできるようにしなければならない。つまり、生徒が思考するには、一単位時間ごと、さらには単元全体を通して、生徒がどのような道筋をたどって課題解決していくかを教師が想定する必要がある。

① 「わかった・できたを実感できる」とは

わかったとは、具体的な内容や方法を理解することであり、できたとは、過去の経験や既存の知識などを使って、問題を解決することと考える。

わかった・できたを実感できるとは、生徒自らがわかったことやできたことを発言や振り返りなどにより表出することである。

② 「ICT の活用」とは

ICT はあくまでもツールであり、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれの学習場面を相互に組み合わせる学びの場を設定する。

一斉学習	教材の提示
個別学習	タブレットドリルの活用、表現・制作・製作、資料の収集
協働学習	発表や話し合い、意見分類・整理、協働制作

1人1台端末を「文房具」として、「いつ」「どのように」使うかを生徒が選んだり、「学習したことを蓄積」していったりというような活用ができるようにする。主に、下記のコンテンツや学習支援ソフト等を活用する。

活用するコンテンツ	NHK for School デジタル教科書
活用する学習支援ソフト等	ロイロノート(動画撮影、提出箱) ロイロノート(動画編集) Kahoot! ミライシード・ドリルパーク

ICT の活用自体を目的とせず、機械的なドリル学習などに偏った活用にならないよう、教員と生徒が共に ICT を通じてデータや情報を有効活用し、コミュニケーションすることで、主体的かつ対話的で深い学びを実現していく必要があると考える。

③ 「振り返りの充実」とは

振り返りとは、学習したことを自分で整理し、小さな達成感を得ることができ、次の学びへと意識をつなげることができる。

一単位時間の授業において、学習の終末段階で「書く活動」や「交流活動」を取り入れた振り返りの場を次のように設定する。

	ねらい	具体的な生徒の活動
学習の振り返り	既存の知識を整理したり、関連付けたりする。	一単位時間ごとにおける、授業に関わる事柄や課題解決の過程の振り返り、発展的な考察、授業の感想を書く活動。【書く】 個別学習
	学習内容を整理したり、付加・修正・強化したりする。	一単位時間の授業を振り返り、学習内容や解決方法をペアで交流する活動。【交流】 協働学習

振り返りをする際に、ただ書くのではなく、本校では、下記のような各教科の振り返りのためのキーワードを使っている。

教科	振り返りのためのキーワード
国語	【理解】【意欲】【深まり】
社会	【事実】【関連】【価値】
数学	【簡潔】【明瞭】【発展】
理科	【簡潔】【発展】【統合】
英語	【理解】【工夫】【意欲】【協働を通じた気づき】
音楽	【協働を通じた気づき】【創意工夫】【意欲】
保健体育	【仲間との関わり】【共生】【協力】【愛好的態度】【健康・安全】
技術・家庭	【創造】【工夫】【発展】【統合】

一単位時間の振り返りに「書く活動」や「交流活動」を取り入れることには、次のようなねらいがある。

	ねらい
書く活動	書くことで、思考を働かせながら、時間をかけて、既存の知識を書いてまとめることで、曖昧だった部分を整理したり、次の授業の学習につながりをもったりすることができ、課題解決に活用することができるようにする。
交流活動	学習内容や解決方法を少人数で交流することで、互いの考えを整理し、自分の中で曖昧な内容に気づいて、その考えを修正したり、補ったり、自分の考えに自信をもったりすることができるようにする。また、少人数で交流活動を行うことで、必ず説明をする機会ができるようにする。

単元全体を通して、「書く活動」を位置づけた振り返りを充実することが、生徒の学力向上につながるとともに、その過程は、主体的・対話的で深い学びの一端を担っていると考える。単元の導入時に、単元前の授業にイメージなどを記入する。一単位時間の授業の振り返りをする。単元終末時に、単元のイメージを記入する。

以上のような振り返りには、生徒が学習で得た知識や技能、課題解決の過程を表出することができる場が設定されている。この活動を通して、既存の知識を柔軟に付加・修正・強化し、既存の知識を生産的なものにしたり、教科を学習することのよさを見いだしたりする。さらに、1枚のシートだからこそ、記述した内容を簡単に見返すことができ、何がどう変わり、そのことについて自分自身がどのような成長をすることができたのか、自己の伸びを実感することができる。

2 めざす生徒像

- 既存の知識をもとに、課題を設定することができる生徒
- 知識や技能を適用することができる生徒
- 自己の考えを付加・修正・強化することができる生徒
- 課題解決に粘り強く取り組むことができる生徒

3 研究仮説

単元を通して、「書く活動」と「交流活動」を取り入れた振り返りの充実や ICT の効果的な活用ができれば、生徒は既存の知識をもとに、新たな知識や技能を適用させ、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるので、自己の考えを交流し、付加・修正・強化していくとともに、生徒に「わかった・できた」を実感できる主体的な学習を促すことができるであろう。

4 研究構想図

研究主題

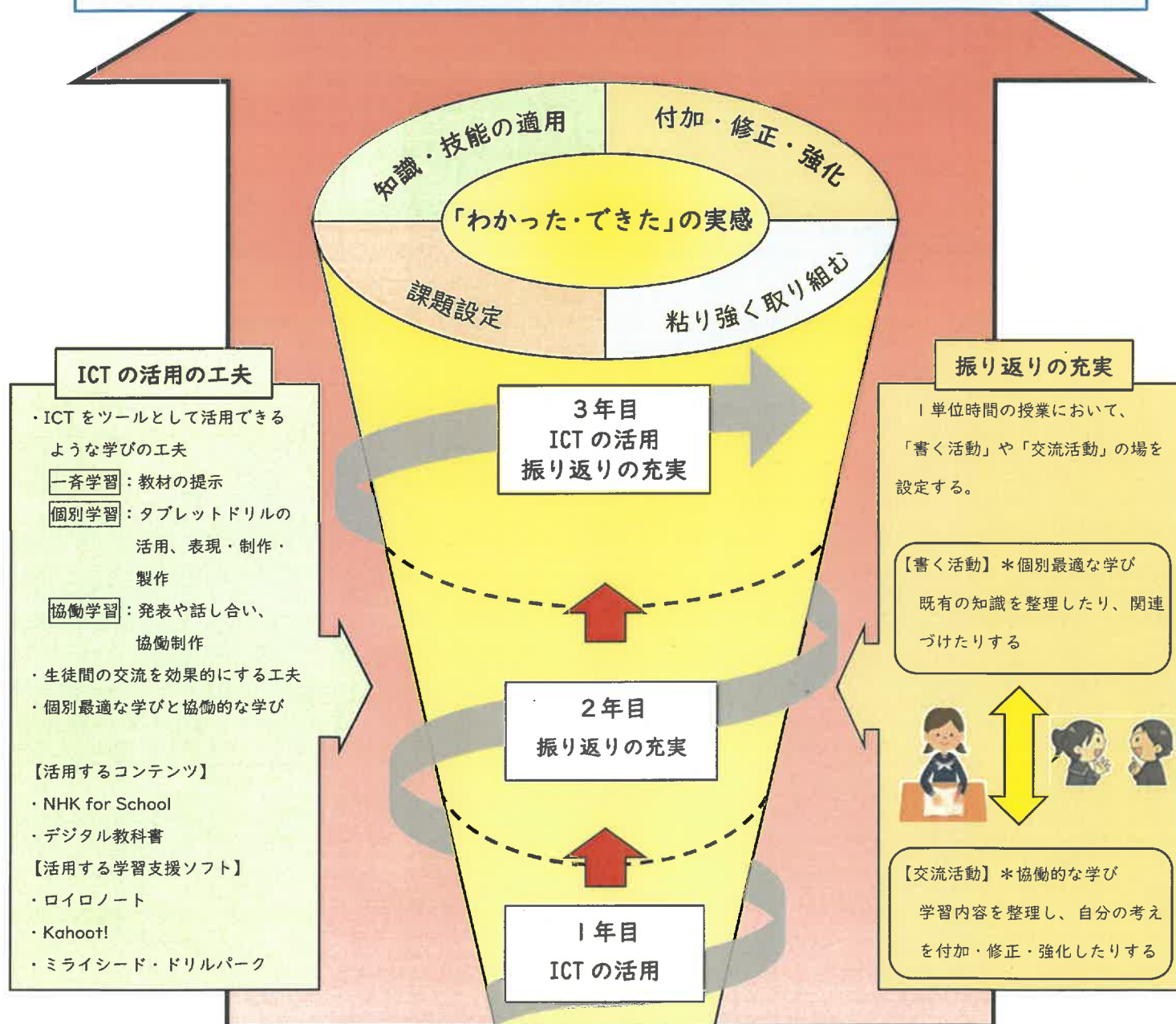
生徒の主体的な学習活動を促す指導

～「わかった・できた」を実感できる ICT の活用と振り返りの充実を通して～

主体的に学習へ取り組む生徒

めざす生徒像

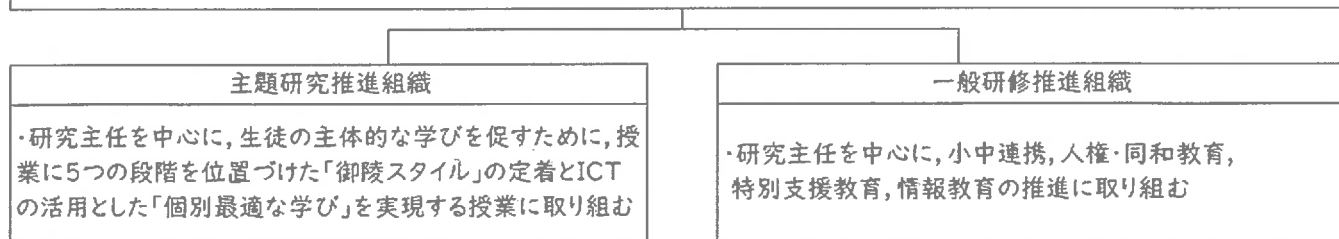
- 既存の知識をもとに、課題を設定することができる生徒
- 知識や技能を適用することができる生徒
- 自己の考えを付加・修正・強化することができる生徒
- 課題解決に粘り強く取り組むことができる生徒



5 研究組織・計画

【研究推進部】

- 構成メンバー … 校長, 教頭, 主幹教諭, 研究主任, 学力向上コーディネーター, 図書・視聴覚・ICT担当代表, 各学年研究部
○研究推進部の主な推進業務内容 … 主題研修, 一般研修, 研究だよりの作成



研修年間計画			
主題研究		一般研修	
4月	校内研修	4月	教科部会・分掌部会による研修会 保護者対応の研修
5月	校内研修 ・本年度の主題研究の確認 ・全研(授業提案)	5月	教科部会・分掌部会による研修会
6月	校内研修 ・個人公開授業①、授業反省会(協議会)	6月	小中連携①に向けた 教科部会・分掌部会による研修会
7月	・個人公開授業①、授業反省会(協議会) 校内研修 ・指導案作成	7月	小中連携②に向けた 人権・同和教育(人権レポート)作成
8月	校内研修 ・指導案作成	8月	小中連携②に向けた 人権・同和教育(人権レポート)意見交流 SCによる生徒理解のための研修(アセス) 特別支援教育の研修 道徳指導案作成(心の教育)
9月	校内研修 ・発表会の準備	9月	
10月	校内研修 ・発表会の準備	10月	心の教育推進大会道徳公開授業(26日)
11月	研究発表会(19日)	11月	
12月		12月	教科部会・分掌部会による研修会
1月	校内研修 ・本年度の成果と課題のまとめ ・次年度の研究推進計画	1月	SCによる生徒理解のための学年毎に研修(アセス)
2月	校内研修 ・本年度の成果と課題のまとめ ・次年度の研究推進計画	2月	教科部会・分掌部会による研修会
3月	校内研修 ・本年度の成果と課題のまとめ ・次年度の研究推進計画	3月	教科部会・分掌部会による研修会

6 成果と課題

<成果>

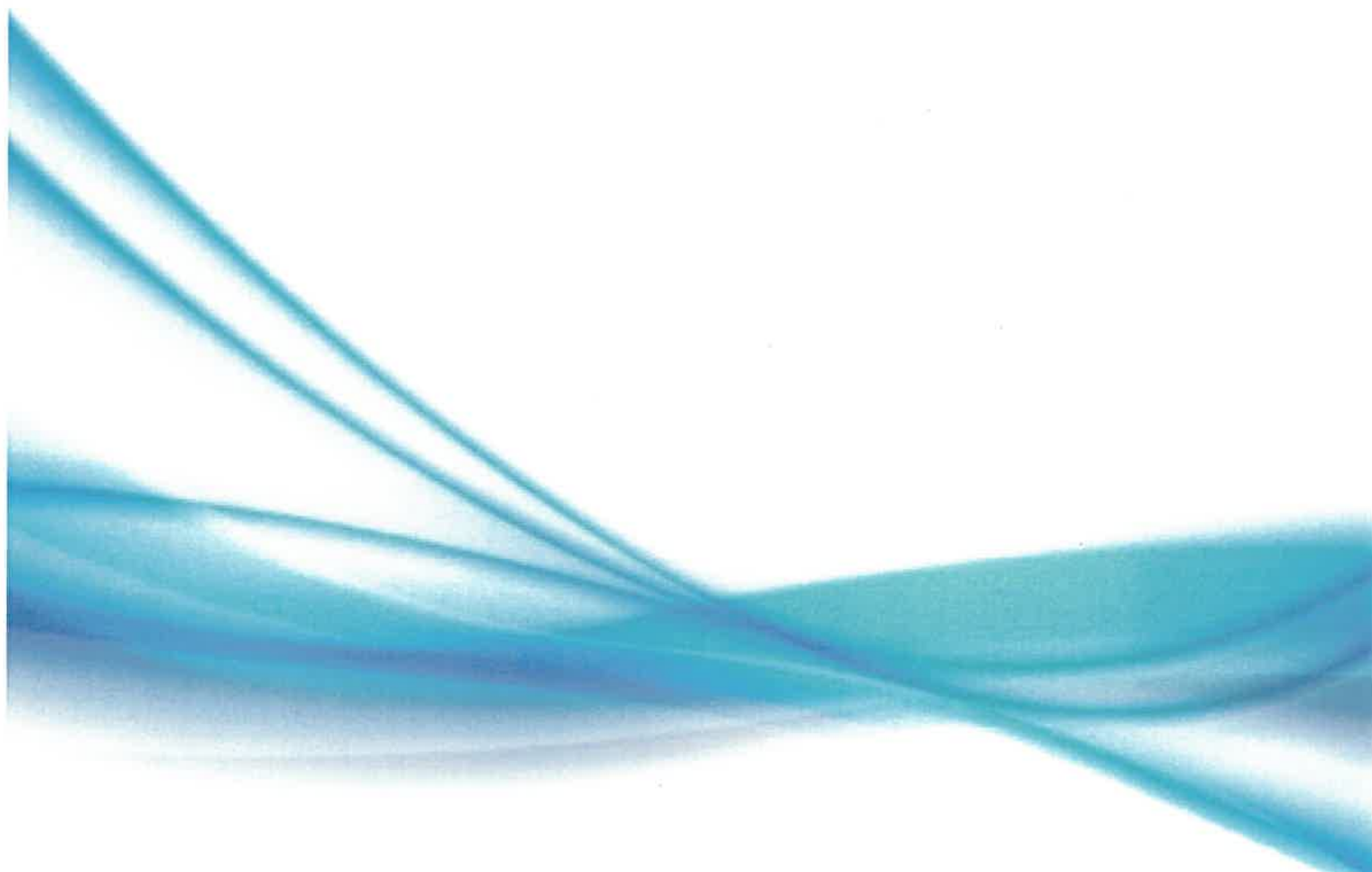
- ICT を活用した授業を実施することで、班交流や発表もタブレットを使って効率的に行うことができた。
- ロイロノートなどのツールは、考えの共有が即時にでき、画面を通した発表なども効果的に行うことができた。
- ロイロノートを使うことで、発表の様子を撮り、評価につなげることができた。
- 振り返りシートを、全教科統一して実施することができたことで、生徒にとって記入しやすいものになった。

<課題>

- 課題解決の手立てとして、ICT の効果的な活用をする必要がある。
- 文章を書くのが苦手な生徒について、振り返りの場を継続的に設定してもなかなか変化が見られない場合があった。各授業における振り返りのスタイル（振り返りの流れ、形態、記述内容）を明らかにするなど、生徒が短時間でより端的に、質の高い振り返りをすることができるよう工夫する必要がある。

Ⅱ

研究の実際



生徒の主体的な学習活動を促す指導の工夫

～「わかった・できた」を実感できるICTの活用と振り返りの充実を通して～

I 研究主題及び副題の意味

(1) 研究主題の意味

平成28・29・30年度大野城市教育委員会研究指定・委嘱校である本校の研究紀要（大野城市立御陵中学校2018）では、「主体的」を「学ぶことに興味や関心を持ち、課題解決に向けて粘り強く取り組み、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していく姿」と示している。本研究では、この先行研究をもとにして、「主体的な学習活動」を次のように定義する。

既存の知識をもとに、新たな知識や技能を適用したり、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していき、課題解決に向けて粘り強く取り組んだりする活動

ヒューソンの「知の生態学的地位」の考え方（1982）において、生徒の知識を高次のものから「①理解可能で納得可能かつ生産的」「②理解可能で生産的」「③理解可能なだけ」の3種類に分けており、次の【資料1】のように整理する。

【資料1】知の生態学的地位の考え方の整理

①	理解可能で納得可能かつ生産的 ＜生徒の思考＞あることがらに対して、「なるほど、そういうことか。つまりあれは〇〇だ。」という状態。「生産的」とは、別の場面でも同じように考えることができたり、より一般的に筋道立てて説明したりすることができるなど発展的に考えることである。
②	理解可能で生産的 ＜生徒の思考＞あることがらに対して、「なるほど、そういうことか。」という状態
③	理解可能なだけ ＜生徒の思考＞あることがらに対して、「言っていることはわかる」という状態

本研究では、主体的な学習を通して、生徒の既存の知識が「生産的」なものになることを目指している。

(2) 副題の意味

中学校学習指導要領において、「確かな学力」は、知識や技能はもちろん、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、より良く問題解決する資質や能力等まで含めたものであるとしている。現在の生徒は、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて課題があると指摘されており、全国的・国際的な学力調査では、学ぶ意欲や判断力、表現力に課題があるとされている。各学校では、子どもたちの個に応じた指導するなど「わかる授業」を行い、「確かな学力」を育むことができるように努めています。

主体的な学習の中核をなすものは、「あれは何なのだろう」「どうなっているのだろう」「なぜこうなるのだろう」「こうするにはどうしたらいいのだろう」という生徒の思考である。生徒がこのような「思考」をすることができるように考えを方向付けたり、広げたり、焦点化したりする。それらは、生徒にすべてを任せてしまうことではなく、教師の専門的な目によって選び抜かれた問題や発問によって、生徒がよりよい思考を自然とできるようにしなければならない。つまり、生徒が思考するには、一単位時間ごと、さらには単元全体を通して、生徒がどのような道筋をたどって課題解決していくかを教師が想定する必要がある。

以上のような主題及び副題のもと、一単位時間の授業において、学習の終末段階で「話す活動」と「書く活動」を取り入れた振り返りの場を次のように設定する。

	ねらい	具体的な生徒の活動
学習の振り返り	学習内容を整理したり、付加・修正したりする。	一単位時間の授業を振り返り、学習内容や解決方法をペアで説明し伝え合う活動。【話す活動】
	既存の知識を整理したり、関連付けたりする。	一単位時間ごとにおける、授業に関わる事柄や課題解決の過程の振り返り、発展的な考察、授業の感想を書く活動。【書く活動】

振り返りに「話す活動」と「書く活動」を取り入れることには、次のようなねらいがある。

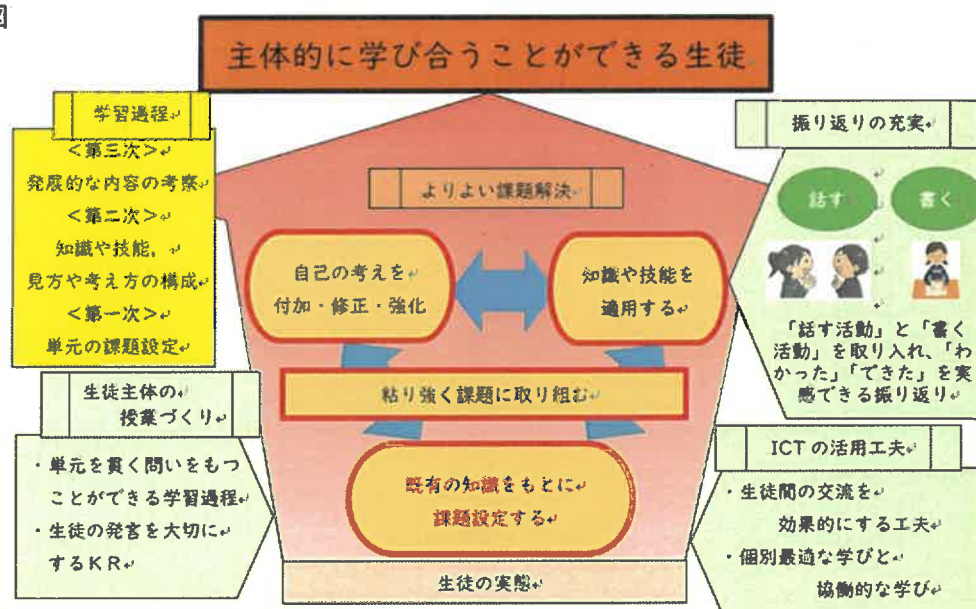
	ねらい
話す活動	学習内容や解決方法を少人数で交流することで、互いの考えを整理し、自分の中で曖昧な内容に気づいて、その考えを修正したり、補ったりすることができるようにする。また、少人数で話す活動を行うことで、必ず説明の機会を得ることができる。
書く活動	既存の知識を書いてまとめることで、曖昧だった部分を整理したり、次の授業の学習につながりをもったりすることができ、課題解決に活用することができるようにする。

以上のような振り返りには、生徒が学習で得た知識や技能、課題解決の過程を外部に表現することができる場が設定されている。この活動を通して、既存の知識を柔軟に付加・修正・強化し、既存の知識を生産的なものにしたり、教科を学習することのよさを見いだしたりする。さらに、記述した内容を見返すことで、何がどう変わり、そのことについて自分自身がどのような成長をすることができたのか、自己の伸びを実感することができる。「話す活動」と「書く活動」を通して振り返りを充実することが、生徒の学力向上につながるとともに、その過程は、主体的・対話的で深い学びの一端を担っていると考えられる。

2 研究仮説

「話す活動」と「書く活動」を取り入れた振り返りの充実や ICT の効果的な活用ができれば、生徒は既存の知識をもとに、新たな知識や技能を適用させ、自己の考えを付加・修正・強化していくとともに、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるので、生徒は「わかった・できた」を実感できる主体的な学習を促すことができるであろう。

3 研究構想図



4 成果と課題

<成果>

○各教科で振り返りのキーワードを決めたことは、教師が授業を構想するとき、「本時の問題はこれでいいのか」「この活動でいいのか」「どのような発問をすればいいのか」などを考えられるので、授業の改善につながった。

○ICTを活用した授業を実施することで、班交流や発表もタブレットを使って行うことができていた。

<課題>

- 振り返りシートを生徒が記入してもすぐに教師が確認することができないので、ICTを活用して毎回提出できるような仕組みをつくる必要がある。(→全教科で、ロイロノートの活用)
- ICTの効果的な活用が、積極的な活用になっている場面があった。ICTの効果的な活用方法を探っていく必要がある。(→校内研修)

本時	令和4年11月16日(水)2時間目	場所	3年1組 教室	7時間中13時間目
主眼	トリックアートについて考察する活動を通して、相似な図形を用いて考察することの有用性を実感することができる。			
授業 仮説	図形の性質と合同の学習において、辺の長さや角の大きさの情報が3つわかっているときの三角形の関係をタブレットを使って他者と考察する活動を設定すれば、合同な三角形をかける情報を整理して、その特徴をグループ分けし、合同になる条件を明らかにすることができるだろう。			
展 開		ICT 活用類型	C 比較	E 交流
過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)		形態
つ か む	1 本時の学習内容を確認する。 (1) トリックアートについて知る。 ・道路標識やドームの広告に、離れたところから見ると立体に見える平面図がある。 1辺が1mの立方体に見えるようにするには、グラウンドにどんな線を引けばいいだろう。 (2) めあてを確認する。 立体に見えるトリックアートを作図する方法を明らかにしよう。 (3) トリックアートの特徴について考え、課題解決の見通しを立てる。	○本時の学習に関心をもつことができるように、現実の世界で事象を数学的に考察する課題を提示する。 ○現実世界の事象を数学的に考察することができるように、問題を理想化して、整理する場を設定する。 ○課題解決の見通しを立てることができるように、振り返りシートから課題解決に関連する学習内容を見いだす活動を設定する。 ○課題解決の見通しを整理することができるように、解決方法をペアや全体で交流する場を設定する。		学級 集団 ／ 個
【イラスト】 【横から見た図】 【上から見た図】 ・グラウンドには長方形のような形になる。・底面の位置は変わらない。上面の位置を考える。 ・面の位置を決めるために、頂点の位置を考える。・視点の高さ、見る人の場所によって変わる。 ・実際に求めることができない長さを、相似の関係を用いることで求めることができる。				12
ひろ げ る	2 課題を解決する。 (1) 個人で考察する。 【横から見た図】 立方体の一辺 $CD=1\text{m}$ 視点の高さ $AB=1.7\text{m}$ 立方体までの距離 $BC=7\text{m}$ グラウンドに描かれる図形の頂点までの距離 $CG=x\text{m}$ $\triangle ABG \sim \triangle DCG$ より $AB:DC=BG:CG$ $1.7:1=(x+7):x$ よって $x=10$ 【上から見た図】 グラウンドに描かれる図形の辺の長さ $JK=y\text{m}$ (2) 小集団や学級集団で解決の方法を確認する。 ・相似な三角形の組を見つけ、長さを求める。 ・横からで上面の縦の長さを求め、上から見た図で上面の横の長さを求める。正方形になる。	○課題を焦点化することができるように、作図するためには、上面が描かれる場所と一辺の長さがわかればよいことを確認する。 ○課題解決を筋道立てて考えることができるように、見通して選び出した課題解決に必要な数理を、振り返りシートで確認するように助言する。 ○課題を筋道立てて解決することができるように、小集団で課題解決の過程について困難点を明らかにして説明する活動を設定する。 ○相似な図形の考え方をを用いることの、有用性、明瞭性のよさを認識できるように、課題解決するために必要な知識について、全体で確認する場を設定する。 ○既習内容の有用性を実感することができるように、求めた長さをを用いてグラウンドに線を引いた動画と写真を提示する。		個 ／ 小 集 団 ／ 学 級 集 団
ま と め る	3 本時の学習を振り返る。 (1) 振り返りシートに本時の学習内容を記述する。 ・トリックアートは相似な三角形が隠れていて、相似な図形の考え方を利用すればわからない長さを正確に求められた。相似な図形は身の周りのことにも使われていて実用的だ。 (2) まとめを確認する。	○本時の学習内容を整理することができるように、振り返りシートに学習で大切な内容を書く活動を設定する。 ◇振り返りシートに相似な図形の考え方をを用いることのよさの記述があるか。(主:振り返りシート) 相似な三角形を見つけ、長さを求めることでトリックアートを作図することができる。		個 ／ 小 集 団

授業のまとめ

田中 智洋

1 本時の主眼

トリックアートについて考察する活動を通して、相似な図形を用いて考察することの有用性を実感することができる。

2 授業の実際

○ 主眼の達成度に関して

つかむ段階では、本時の学習に関心をもつことができるように、道路標識やドームの広告など、離れてみると立体的に見える平面図を、大型提示装置や模型を用いて提示した。【写真①】また、課題解決の見通しを立てることができるように、身の回りにあるトリックアートの写真や振り返りシートを用いて、トリックアートの特徴について考えた。

ひろげる段階では、立方体に見える平面図の辺の長さを個人で考察した。その後、小集団や全体で解決の方法を確認した。さらに、相似な図形の考え方をを用いることの有用性を実感することができるように、求めた長さをを用いてグラウンドに線を引いた場合の動画や写真を提示した。【写真②】

まとめる段階では、本時の学習内容を整理することができるように、振り返りシートに学習内容を記述する場を設定した。【写真③】振り返りシートの記述には、「目にしたことがあるトリックアートに相似な図形が潜んでいて驚いた」など、新たな発見に驚いたり感動したりする感想が多くあったが、相似な図形の考え方をを用いるよさ（本時では有用性や明瞭性のよさ）を記述している生徒は4名であった。そのため、主眼の達成度は10%程度だと考える。

○ ICTの効果的活用について 提示・交流

課題を大型提示装置で提示することで、本時の課題に関心をもつことができていた。また、生徒の記述を書画カメラで提示して考えを全体で交流することができた。さらに、ロイロノート上に課題を取り込み、パソコン上で色をつけたり、線を引いたりして見やすく説明することができた。



【写真①】



【写真②】



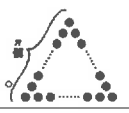
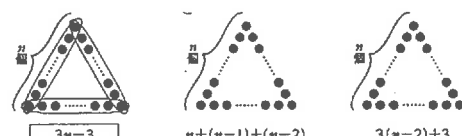
【写真③】

3 研究協議の意見交流から

- ・主眼と評価のつながりを意識して授業をつくる。1つの主眼に対して、1つの評価ではなくてよい。
- ・パフォーマンス課題として、課題提示後から小集団で考えさせてもよかった。1つの授業では時間が足りないので、実際に作図するところまで含めて、3時間（設計・調整・活動）計画の方がよい。

4 成果と課題

- 身の回りにある具体的な写真や動画を提示することで、本時の学習に関心をもたせることに有効であった。ロイロノートを使うことで、生徒の実態に応じた説明を、授業の中で調整することがしやすい。
- 生徒がロイロノートを使いこなせていない（教師が使いこなすだけの指導をしていない）。自分の考えをわかりやすく説明するために、自発的に使うことができるように練習する必要がある。
- 学習指導要領改訂のポイントをおさえ、個別最適な学びと共働的な学びの実現を目指して授業作りを行う。中堅教員としてテーマやこだわりをもった授業実践をする。

本時	令和4年7月19日(火) 5時間目	場所	1年1組教室	18時間中13時間目	
主眼	図と式を関連付けて基石の総数を表す式を求め、その求め方を説明することができる。				
授業 仮説	1辺に基石をn個並べて正三角形をつくったとき、基石の総数を表す式を求め、その求め方を図と式を関連付けて考察する活動を設定すれば、文字式が簡潔、明瞭に表現するために必要なことへの理解を深め、説明することができるだろう。				
展 開					
過程	めあて・まとめ	学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ		1 本時の学習内容を確認する。 (1)問題を確認する。 1辺にn個ずつ基石を並べて正三角形をつくる。 基石の総数をnの式で表そう。 	○前時の学習の振り返りをする。	一斉	5
		(2)めあてを確認する。 めあて：基石の総数を図や式を使って工夫して求め、説明しよう。		個	10
ひろげる		(3)基石の総数の求め方の見通しを考える。 ・図を使って、基石を囲んで考える。 ・具体的な数で考えてみる。 (4)1辺が5個の場合について考える。  ・ $4 \times 3 = 12$ ・ $5 \times 3 - 3$ ・ $5 + 4 + 3$ ・ $(5 - 2) \times 3 + 3$	○工夫して求める必要性に気付くことができるように、具体的な場合で考える場を設定する。 ○多様な求め方に触れさせるために、個人で考えた後で、考えを交流する場を設定する。		
		2 課題を解決する。 (1)個人で考える。  $3n-3$ $n+(n-1)+(n-2)$ $3(n-2)+3$	○1辺が5個の場合を参考にして考えるように助言する。	個	10
まとめる		(2)考えを小グループで交流し、多様な考え方を比較検討をする。	○ロイロノートを使って、考えを交流後、簡単、分かりやすい、広く使える考え方をまとめた図や式を小グループで選び、提出させる。	小集団	8
		(3)簡単、分かりやすい、広く使える考え方を学級全体で交流する。	○基石の並び方を正方形や正五角形に変えた場合などもあることを提示する。	一斉	7
まとめる		3 本時の学習を振り返る。 (1)振り返りをロイロノートのカードに記入する。	◇1辺にn個の正三角形の基石の総数を、工夫して求め、図や式に表すことができたか。(学習プリントの記述)		
		○図や式を使うと、わかりやすく説明できた【明瞭】 ○ $3n-3$ は総数の求め方と同時に計算結果にもなっていて、その式に代入すると総数が求められ、便利である【簡潔】 ○正三角形だけでなく、正方形でも考えてみたい【発展】		個	10
		(2)まとめをする。		一斉	
		まとめ：文字式を使って表すと、簡単に、分かりやすく求めることができる。			

授業のまとめ

末次 利恵

1 本時の主眼

図と式を関連付けて基石の総数を表す式を求め、その求め方を説明することができる。

2 授業の実際

○ 主眼の達成度に関して

つかむ段階では、今までの学習を生徒がロイロノートに提出したノートを使って、短時間で既習事項の振り返りを行った。1辺に n 個並んだ正三角形の基石の総数を式に表すために、課題解決の見通しを立てさせた。そして、1辺が5個の場合を考えさせ、ロイロノートに提出させ、考えを交流させた。【写真①】

ひろげる段階では、1辺が n 個の場合も、1辺が5個の場合の友達の考えを参考にさせ、図を使って、考察させた。【写真②】

さまざまな考え方を交流させた後、簡単、分かりやすい、広く使える考えをまとめた図や式を小グループで選び、提出させた。【写真③】
図を使っの説明が4割位の生徒ができなかった点では、5個の考え方から抜け出せなくて、 n 個というプリントに表せない数が想像できなかったことも原因と考える。そのため、主眼の達成度は60%程度だと考える。

まとめる段階では、振り返りの中に、わかりやすく説明できた(20人)、便利である(5人)、正方形でも考えてみたい(1人)などという記述が見られた。しかし、本時の振り返りの記述としては、学習したことのまとめ・感想だけで終わっている生徒もいるので、意図しているものとは違う内容になっていた。

○ ICTの効果的活用について 交流・時短

考えを小グループで交流後、条件に合う考え方を1つにしぼり、提出させることで、すぐに学級全体で交流することができた。また、分からない問題も、先に提出した生徒の考え方を参考にすることができた。



【写真①】



【写真②】



【写真③】

3 研究協議の意見交流から

- ・見通しの場面を充実させるために、単元を通して、考え方やよさを広げていく視点をもつことが大切だった。
- ・ $n=2, 3$ の場合に、基石の代わりにタブレットで点を打つことで、作業も速くなり、タブレットならではの良かった。

4 成果と課題

- 小グループで交流し、条件にあうものを学級全体で確認する際には、ロイロノートを使うことで、準備時間なしでできるので、考察する時間を長く確保をする上で有効であった。
- 基石の総数の求め方が分からなかった生徒も、できた生徒が提出したものをロイロノートの共有を使うことで、たくさんの考え方を参考にすることができたので、考えを深める上で有効であった。
- 具体的な数の場合は、目に見えて分かりやすかったが、 n 個になると、考えが進まない生徒もいたので、タブレットを使って、 $n=6, 7, 8$ …の場合の図を書かせて考えさせても良かった。

生徒の主体的な学習活動を促す指導の工夫

～「わかった・できた」を実感できるICTの活用と振り返りの充実を通して～

I 研究主題及び副題の意味

(1) 研究主題の意味

平成28・29・30年度大野城市教育委員会研究指定・委嘱校である本校の研究紀要（大野城市立御陵中学校2018）では、「主体的」を「学ぶことに興味や関心を持ち、課題解決に向けて粘り強く取り組み、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していく姿」と示している。本研究では、この先行研究をもとにして、「主体的な学習活動」を次のように定義する。

課題解決に向けて粘り強く取り組み、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していくことで、既存の知識を生産的なものにしたり、教科のよさを見いだしたりする活動

(2) 副題の意味

中学校学習指導要領において、「確かな学力」は、知識や技能はもちろん、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、より良く問題解決する資質や能力等まで含めたものであるとしている。現在の生徒は、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて課題があると指摘されており、全国的・国際的な学力調査では、学ぶ意欲や判断力、表現力に課題があるとされている。

主体的な学習の中核をなすものは、「あれは何なのだろう」「どうなっているのだろう」「なぜこうなのだろう」「こうするにはどうしたらいいのだろう」という生徒の思考である。生徒がこのような「思考」をすることができるよう考えを方向付けたり、広げたり、焦点化したりする。それらは、生徒にすべてを任せてしまうのではなく、教師の専門的な目によって選び抜かれた問題や発問によって、生徒がよりよい思考を自然とできるようにしなければならない。つまり、生徒が思考するには、一単位時間ごと、さらには単元全体を通して、生徒がどのような道筋をたどって課題解決していくかを教師が想定する必要がある。

以上のような主題及び副題のもと、一単位時間の授業において、学習の終末段階で「書く活動」と「交流活動」を取り入れた振り返りの場を次のように設定する。

	ねらい	具体的な生徒の活動
学習の振り返り	既存の知識を整理したり、関連付けたりする。	一単位時間ごとにおける、授業に関わる事柄や課題解決の過程の振り返り、発展的な考察、授業の感想を書く活動。【書く活動】
	学習内容を整理したり、付加・修正したりする。	一単位時間の授業を振り返り、学習内容や解決方法をペアで交流する活動。【交流活動】

振り返りに「書く活動」と「交流活動」を取り入れることには、次のようなねらいがある。

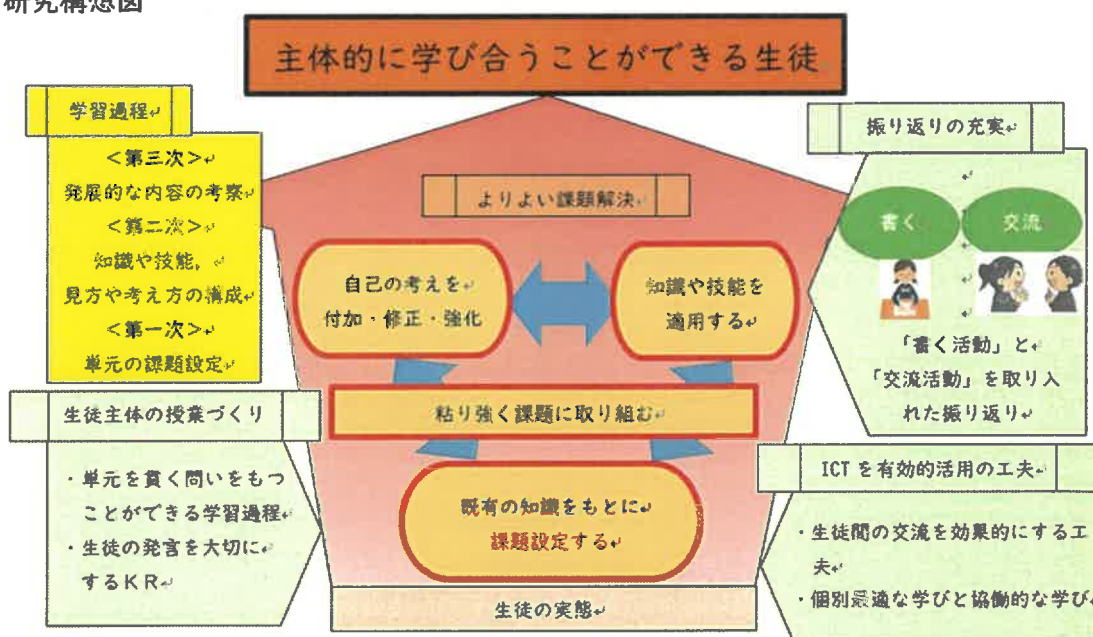
	ねらい
書く活動	既存の知識を書いてまとめることで、曖昧だった部分を整理したり、次の授業の学習につながりをもたたりすることができ、課題解決に活用することができるようにする。
交流活動	学習内容や解決方法を少人数で交流することで、互いの考えを整理し、自分の中で曖昧な内容に気づいて、その考えを修正したり、補ったりすることができるようにする。また、少人数で交流活動を行うことで、必ず説明の機会を得ることができる。

以上のような振り返りには、生徒が学習で得た知識や技能、課題解決の過程を外部に表現することができる場が設定されている。この活動を通して、既存の知識を柔軟に付加・修正・強化し、既存の知識を生産的なものにしたり、教科を学習することのよさを見いだしたりする。さらに、記述した内容を見返すことで、何がどう変わり、そのことについて自分自身がどのような成長をすることができたのか、自己の伸びを実感することができる。「書く活動」と「交流活動」を通して振り返りを充実することが、生徒の学力向上につながるとともに、その過程は、主体的・対話的で深い学びの一端を担っていると考えられる。

2 研究仮説

「書く活動」と「交流活動」を取り入れた振り返りの充実や ICT の効果的な活用ができれば、生徒は既存の知識をもとに、新たな知識や技能を適用させ、自己の考えを付加・修正・強化していくとともに、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるので、生徒は「わかった・できた」を実感できる主体的な学習を促すことができるであろう。

3 研究構想図



4 成果と課題

<成果>

- 振り返りを交流させることで、新たな気づきが生まれ、考えを深める上で有効であった。
- ICT を活用した授業を実施することで、班交流や発表もタブレットを使って効率的に行うことができた。
- ロイロノートなどのツールは、考えの共有が即時にでき、画面を通した発表なども効果的に行うことができた。
- ロイロノートを使うことで、発表の様子を撮り、評価につなげることができた。

<課題>

- 振り返りの時間の確保をしていく必要がある。（→タ学習5分での時間の確保）
- 課題解決の手立てとして、ICT の効果的な活用をする必要がある。（→ロイロノートの共有の活用）
- 振り返りの方法が、個人によってバラバラだったので、学校としてそろえていく必要がある。（→教科毎に、単元で1枚のシート、毎時間、振り返りの記入、導入時→単元終わりの変容が見えるような記入用紙の工夫）

1 単元名「平方根」

2 指導観

- 平方根の概念は古代エジプト時代から存在しており、農地の測定をより正確に求めるために平方根の値の近似値を用いて、土地や水の量を測り、農作物の量を予測していた。その後、多くの数学者によって改良され、クリストフ・ルドルフは1525年の著書『未知数』の中で $\sqrt{2}$ と表したことが原型と言われている。平方根は幅広い分野で使用されており、様々な建造物の設計や測量、電気回路の計算や音響技術などにおいて、過去から現在にかけて不可欠な要素として機能している。

本単元では、平方根の基本的な概念や原理・法則を学び、平方根を含んだ簡単な計算やその方法を考察したり、平方根を用いた身の回りの事象に関して学んだりする。この単元を通して、正の数の平方根の必要性和意味を理解し、正の平方根を含む簡単な式の計算ができるようにするとともに、具体的な場面で平方根を用いて表したり、処理したりすることを通して、それを具体的な場面で活用することができるようにする。また、これから学習する二次方程式や三平方の定理にもつながる内容である。平方根の学習をしていくことは、有理数では表すことができない量を、新しい数で表すことで数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとを広く深く考察、処理していく基礎をなすものとして重要な役割を占めており、大変価値があると考えらる。

- 子どもは、第一学年では取り扱う数の範囲を正の数と負の数に拡張して、正の数と負の数の必要性和意味、四則計算について学習している。また、第二学年では、文字を用いた式や方程式、関数、確率などについて学習し、数についての理解を深めている。

本学級の子どもを対象に行った事前調査では、「数と式」領域の学習の興味・関心については3.1(5段階自己評価尺度法)であった。その理由としては、「計算問題を解くことが楽しい」とする一方で、「計算の順番がわからない」「難しい計算をしても将来の役には立たない」という意見もあった。また、振り返りシートの単元学習前の平方根のイメージでは、「2乗の計算をする」「たくさん公式が出てきそう」「将来使う場面がなさそう」という平方根へのマイナスな考えがあった。

本学級の子どもは、計算問題に意欲的に取り組んでいるが、新しい関係や概念を理解することや説明することに困難さを感じている。また、「数と式」領域の学習と現実世界とのつながりを見いだすことができず、数学の必要性やよさを感じていないことにも課題がある。

- 本単元では、平方根の学習への関心を高め、平方根の必要性和意味を理解し、平方根を含む式の計算をするなど、平方根に関する数理を構成するとともに、現実の世界の問題に数理を活用し、有用性などの数学のよさを実感できることをねらいとする。そこで、次のような手だてをとる。

第一次において、平方根の学習への関心をもつことができるように、様々な大きさの正方形を作図し、一辺の長さについて考察する活動を設定する。

第二次において、平方根の必要性和意味を理解し、平方根を含む式の計算をするなど、平方根に関する数理を構成できるように、2乗の数に着目して平方根の特徴を整理し、学習内容を振り返り

シートに記述してまとめ、既習内容をもとに計算方法などを考察する活動を設定する。また、ドリルパーク(AIドリル)を使用して既習内容の定着を図る。

第三次では、現実の世界の問題に数理を活用するとともに、有用性など数学のよさを実感できるように、身の周りで使用されている平方根について考察したり、コピー機に表示されている倍率の仕組みを説明したりする活動を設定する。

3 単元の目標

- (1) 数の平方根についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。(知識・技能)
- (2) 数の範囲に着目し、数の性質や計算について論理的に考察することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 平方根の考え方をを用いて考察する数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して、粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元計画(11時間)

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	評価規準(観点:方法)
一	1 ①	1 2 乗すると a になる数について考える。 (1) 正方形の面積と辺の長さの関係について考える。 ・正方形の一边の長さ ・根号・平方根	平方根の学習への関心を高めることができるようにする。 ・平方根の必要性や意味を理解できるように、様々な面積の正方形を書き、その一边の長さを考える活動を設定する。	・平方根の学習に関心をもつことができる。 (主:振り返りシート)
二	1 ③ 2 ⑤	2 平方根の性質について考える。 (1) いろいろな数の平方根を求める。 ・ $\pm\sqrt{a}$ ・0の平方根 ・素因数分解を用いた考え方 (2) 平方根の大小関係について考える。 ・面積図を用いて考える。 ・平方根の数直線 (3) 今まで学習した数を整理する。 ・有理数、無理数 ・有限小数、無限小数、循環小数 3 根号を含む計算について考える。 (1) $\sqrt{\quad}$ のついた数の乗除の計算について考える。 ・2 乗の形で表して $\sqrt{\quad}$ の外に出す ・ $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{a \times b}$ (2) 分母に $\sqrt{\quad}$ のついた数について考える。 ・分母の有理化 (3) $\sqrt{\quad}$ のついた数の加減の計算について考える。 ・正方形の面積と一边の長さの関係 (4) $\sqrt{\quad}$ のついた数の四則計算について考える。 ・展開の公式 (5) 身の回りの測定値と実際の値について考える。 ・測定値、近似値、誤差 ・有効数字とその表し方	平方根についての基礎的な概念や根号を含む四則計算などの、平方根に関する数理を構成できるようにする。 ・様々な数の平方根を求めることができるように、2 乗の数に着目して平方根の特徴を整理する場を設定する。 ・平方根の大小関係を理解できるように、正方形の一边の長さを比較したり、平方根を用いた数直線を提示したりする場を設定する。 ・有理数と無理数について理解できるように、数直線やベン図を用いてまとめる場を設定する場を設定する。 ・平方根を含む乗除の計算方法を明らかにできるように、計算方法の予想が正しいか近似値を用いて考察する場を設定する。 ・平方根の簡単な式を計算することができるように、ドリルパークを使って練習する活動を設定する。 ・筋道立てて証明することができるように、正方形の面積と辺の関係から加減の計算方法を確認する場を設定する。 ・手際よく計算することができるように、長方形の面積を用いて解法を確認する場を設定する。 ・真の値や測定値の関係や誤差の意味を理解できるように、経験したことがある身の回りの事例をあげて考える場を設定する。	・平方根の基本的な知識を理解することができる。 (知:学習プリント) ・根号のある数の大小関係を求めることができる。 (知:学習プリント) ・平方根を含む簡単な式を計算することができる。 (知:学習プリント) ・既習内容をもとに、平方根を含む式の計算方法を考察することができる。 (思:学習プリント) ・分母の有理化について理解することができる。 (思:学習プリント) ・既習の知識から発展的に考えることができる。 (思:学習プリント) ・根号のついた数の近似値を求めることができる。 (知:学習プリント)
三	1 ②	4 現実の世界の問題を考察する。 (1) A4 用紙に含まれる $\sqrt{\quad}$ について考察する。 ・隣り合う二辺の長さの比が $1:\sqrt{2}$ ・白銀比 (2) 写真の面積を 2 倍の大きさにする倍率について考える。 ・面積と辺の長さの関係から、倍率を求める。	現実の世界の問題に数理を活用するとともに、有用性などの数学のよさを認識できるようにする。 ・平方根の考え方を活用することができるように、A4 用紙の辺の比の関係を調べるとともに、日常生活における問題に活用されてる事例を提示する。 ・平方根の有用性を認識することができるように、コピー機の拡大率と平方根の関係を考察する活動を設定する。	・有用性などの数学のよさを実感することができる。 (主:振り返りシート) ・2 倍の面積に拡大する倍率を求めることができたか。 (知:学習プリント) ・既習の知識を活用することができる。 (思:学習プリント)

5 本時 令和5年7月19日(水)第三次2時(11/11) 第5校時 第3学年1組教室

(1) 本時の指導観

前時までに子どもたちは、正方形の面積と辺の長さの関係について考え、平方根の基本的な概念や平方根を含む簡単な式を計算したりしている。また、A4用紙の隣り合う辺の比に含まれる平方根について考察している。

本時は、撮影した写真を、コピー機を使って面積を2倍の大きさにするには、どの拡大率で拡大すればいいかを考察し、その仕組みを明らかにしていく学習に取り組む。この学習を通して、面積と辺の長さの関係に着目し、既習の知識と関連づけて拡大率を求め、平方根の必要性やよさを認識することをねらいとする。

そのために次のような手だてをとる。

- ・本時の課題を設定することができるように、コピー機の画面を提示し、身の回りにある問題に対して個人で答えを予想する場を設定する。
- ・既習内容が課題の解決に有効であることに気づくことができるように、A4を2枚つなげると、A3(同じ形で2倍の面積)になることを確認する場を設定する。
- ・本時の学習内容を明らかにし、平方根の必要性やよさを認識することができるように、解決の過程における考え方を振り返りシートに書く活動を設定する。

(2) 本時の主眼

写真の大きさを2倍にする拡大率について考察する活動を通して、面積と辺の長さの関係に着目し、既習の知識と関連づけて拡大率を求め、平方根の必要性やよさを認識することができる。

(3) 準備

学習プリント、パソコン、タブレット、拡大した写真

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 前時の学習内容を確認する (1) A4 用紙について確認をする。 ・A4 用紙の辺の比は $1:\sqrt{2}$ なる。 ・A4 を 2 枚つなげると A3 になっている。	○本時の学習の方向性を確認するために、前時の学習内容を想起する場を設定する。 *振り返りシート(No10)	一斉	3
	2 本時の学習内容を確認する。 (1) 問題を把握し、課題を確認する。		一斉	2
	学級写真を見やすくするために、写真の大きさ(面積)を2倍にしたい。何%で拡大コピーすればいいだろうか。		個	8
	(2) 個人で答えを予想し、全体で確認する。 ・面積が 2 倍だから、200%にすればいい。 ・200%よりも小さい数字になりそう。 ・一度の拡大ではできないかもしれない。	○本時の課題を設定することができるように、コピー機の画面を提示し、身の回りにある問題に対して個人で答えを予想する場を設定する。	／ 一斉	
	自らの考えを整理し、共有することができるように、2 倍にするにはどのように拡大すればいいか、google form を用いて個人の考えを提出する。(google form で集約)		一斉	2
	(3) 本時の課題を確認する。			
	めあて:コピー機の倍率について考えよう。			
ひろげる	3 課題を解決する。 (1) 課題解決の見通しをたてる。 ・200%で拡大すると、辺の長さが 2 倍になるので、面積が 4 倍になってしまう。 ・面積を 2 倍にするには、辺の長さを何倍すればいいかを考えればいい。 ・A4 を 2 倍すると A3 になる。	○課題解決の見通しをたてることができるように、200%で拡大した写真を提示し、何が 2 倍になっているかを明らかにする場を設定する。 ○既習内容が課題の解決に有効であることに気づくことができるように、A4 を 2 枚つなげると、A3(同じ形で 2 倍の面積)になることを確認する場を設定する。*振り返りシート(No.10)	一斉	7
	(2) 個人で考える ・縦と横の長さを 2 倍にすると、面積は 4 倍になるので、面積を 2 倍にするには、縦と横の辺の長さを $\sqrt{2}$ 倍すればいい。 ・A4 用紙を二枚並べると面積が 2 倍の A3 用紙になる。A4 の短辺の長さを 1 とすると、A4 の長辺は $\sqrt{2}$ となり、A3 の短辺は $\sqrt{2}$ 、長辺は 2 となる。A4 と A3 の辺の長さを比べると、 $\sqrt{2}$ 倍になっているので、面積を 2 倍するには、 $\sqrt{2}$ 倍の拡大をすればいい。		個	13
	(3) 考えを学級全体で交流する。 ・写真を 2 倍に拡大するには、 $\sqrt{2}$ の近似値は 1.41 なので、141%で拡大すればいい。 ・○倍の大きさにしたいときは、 $\sqrt{\circ}$ の近似値で拡大すればいい。	◇2 倍の面積に拡大する倍率を求めることができたか。(学習プリントの記述) ○ $\sqrt{2}$ 倍が何%かわからない生徒には、振り返りシートを参考にするように助言する。*振り返りシート(No.3) ○発展的に考えることができるように、他の拡大率にはどのような数であるか確認する場を設定する。	一斉	7
まとめる	4 本時の学習を振り返る。 (1) 本時の学習のまとめを確認する。	○本時の学習内容を明らかにできるように、解決の過程における考え方を振り返りシートに書く活動を設定する。	一斉	3
	まとめ:コピー機には平方根の考えが使われており、面積を2倍するには、 辺の長さ $\sqrt{2}$ 倍(=141%)すればいい。			
	(2) 振り返りシートに本時の学習内容を記述する。	◇平方根を用いて考えることのよさを記述できたか。(振り返りシート)	個 ／ 一斉	5
	○拡大・縮小の倍率がなぜその数字か平方根の考えで理解できた【明瞭】 ○縮小するための倍率も同じように考えることができそう【統合】 ○122%や115%など、他の拡大率にはどのような意味があるか考えたい【発展】			

授業のまとめ

田中 智洋

1 本時の主眼

写真の大きさを2倍にする拡大率について考察する活動を通して、面積と辺の長さの関係に着目し、既習の知識と関連づけて拡大率を求め、平方根の必要性やよさを認識することができる。

2 授業の実際

○ 主眼の達成度に関して

つかむ段階では、本時の課題を設定することができるように、コピー機の画面を提示し、身の回りにある問題に対して個人で答えを予想する場を設定した。先日撮影した学級写真を掲示するために拡大するという問題を提示し、結果を予想して共有した。Google Formsで意見を共有したり、200%で拡大すると上手くいかないことを確認したりすることから、子どもたちが課題を設定することができていた。

ひろげる段階では、既習内容が課題の解決に有効であることに気づくことができるように、A4を2枚つなげると、A3（同じ形で2倍の面積）になることを確認する場を設定した。前時に、A4サイズのコピー用紙の特徴について考察していたので、振り返りシートを見直して、考えを整理していた。

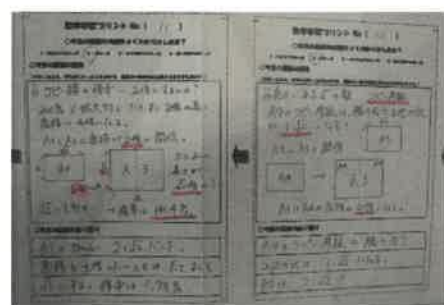
まとめる段階では、本時の学習内容を明らかにし、平方根の必要性やよさを認識することができるように、解決の過程における考え方を振り返りシートに書く活動を設定した。主眼の達成度は30%と考える。平方根を用いて考えることの明瞭性や有用性に関するよさの記述した子どもが少なかった。【写真②】のように、前時までの内容と関連付けて、振り返ることができている子どももいた。

○ ICTの効果的活用について 共有

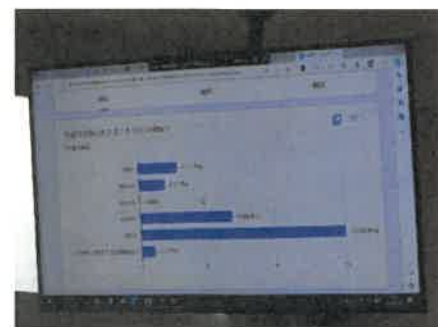
自らの考えを整理し、共有することができるように、2倍にするにはどのように拡大すればいいか、Google Formsを用いて個人の考えを集約し、全体に共有する場を設定した。Google Formsを用いたことで、実態の把握をリアルタイムで行うことができた。【写真③】ヒントカードをロイロノートで配付したり、振り返りを提出したりする等の活用方法も考えられたので今後の授業で検討したい。



【写真①】考えを交流する様子



【写真②】振り返りの内容



【写真③】formを使って全体で共有

3 研究協議の意見交流から

- ・ Google Forms を用いたことで、子どもたちの考えをリアルタイムで共有することができており、子どもたちの課題設定に有効であった。
- ・ 個人で考えをまとめる場において、振り返りシートを用いて考えようとしていた。振り返りシートが子ども達にとって有効なものになっている。考えを交流する場で、考えが止まっている子どもがいたので、ヒントカードなどの手だてが必要であった。

4 成果と課題

- ICTの活用について、意見の共有を効果的に行うことができていた。普段の授業から、活用すべき場面で取り入れていきたい。
- 課題解決の手だてとして、ICTを活用し、個別に支援できるようにしていく必要がある。

第1学年1組保健体育科学習指導案

指導者 真子 幸太郎

1 単元名 陸上競技「走り高跳び」

2 指導観

- 走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことで楽しさや喜びを味わうことができる競技である。「助走」「踏み切り」「空中動作」「着地」の大きく分けて四つの局面から構成される。

また、どれだけ高く跳べるか記録に挑戦したり、仲間と競争したりして楽しむことができる競技である。特に、自己の記録更新や自己のめあての達成をすると、一層楽しいものとなる。また、記録が数値で表れるため、自己の記録の伸びを明確に実感することができ、達成感を味わうことができる。その反面、記録を伸ばすことができないと、意欲が低下してしまう運動でもある。また、バーに接触したり、足を引っかけて転倒したりすることに対して、恐怖心を抱いてしまうことも考えられる。

走り高跳びの学習を通して、個の技能に応じた練習の選択や、互いに補助し合ったり、運動観察をしたりすることで、仲間と教え合いながら取り組み、種目特有の技術を身に付け、「わかった」「できた」を味わわせるうえで大変意義深い。

- 本学級の生徒は、元気がよく、仲間と声をかけあいながら意欲的に学習に取り組むことができる生徒が多い。また、話を聞く態度や集合などの学習規律は定着している。事前アンケートでは、「運動をすることは好きですか」の問いに対して73%の生徒が「好き」「やや好き」と回答しており、運動が好きな生徒が多い。しかし、極端に運動を苦手としている生徒もおり、個の技能に応じた段階的な学習が求められる。走り高跳びに関しては、「走ったり、跳んだりすることが苦手」という理由を挙げている生徒もおり、個人の能力差があっても全員が楽しめる学習を行う必要がある。また、「バーに当たるのが嫌、痛そう」「跳ぶことや着地が怖い」等、恐怖心が意欲の低下に影響しないよう用具や練習方法を工夫し、安全に安心して行えるように配慮する必要がある。
- 指導にあたっては、「記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術を身につけることができるようにする」ために、「自己や仲間の課題に応じた練習の取り組み方を工夫する」ことができるよう授業を展開していく。跳び方は「はさみ跳び」とし、仲間とアドバイスをし合いながら、自分に合った「助走」「踏み切り」「空間動作」を見つけることができるようにする。

指導方法の工夫としては、仲間同士でより具体的に助言ができるよう、映像を見てイメージをもたせるなど、視覚的に捉えることができるようにする。また「リズムカルな助走から力強く踏み切り、滑らかな空間動作で跳ぶ」ために、バーを毛糸にし高さに対する恐怖心を取り除き、練習を行っていく。また、個人の目標値は【(身長×0.5) - (50m走のタイム×10) + 110】で求めた。

はじめに、一次の段階ではオリエンテーションを通して、「走り高跳び」の特性を理解し、記録を伸ばすために必要な技術や体力要素、競技規則やルール及びマナーについて理解し、安全に活動できるようにする。また、基本練習において、お手本の動画を視聴することで「助走」「踏み切り」「空間動作」「着地」の技術のポイントを整理し、技能の高め方を理解し、練習に取り組む。

次に、二次の段階では中間記録会で動画撮影を行い、動きのよさと課題を発見し評価を行う。さらに、お手本と自己の動きの動画を比較する活動を行い、課題を明確にしたうえで、課題練習を行い、つまづきを解決する。

最後に、三次の段階で記録会を行い自分や仲間の目標達成状況や単元を振り返る活動を行う。

3 単元の目標

- 走り高跳びでは、その行い方を理解するとともに、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。(知識及び技能)
- 自己や仲間の能力に適した課題を見つけ、課題に応じた練習の場を選んだり、自己や仲間の動きの変化や伸びを見つけ、他者に伝えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力)
- 場や用具の安全に気を配り、友達と教え合い、励まし合いながら練習や競争に進んで取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

4 評価規準

知識	①技術の名称や「助走」「踏み切り」「空間動作」「着地」における動きのポイントを理解している。
技能	②跳躍の頂点とバーの位置が合うように、リズムカルな助走から自分に合った踏み切り位置で強く踏み切ることができる。 ③足と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶことができる。
思考力・判断力・表現力	④合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ⑤練習方法から、自己の課題に応じて動きの習得に適した練習方法を選んでいる。
主体的に学習に取り組む態度	⑥勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 ⑦仲間とお互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。 ⑧健康・安全を確保している。

5 単元計画及び評価、ICTの活用計画（全8時間：本時4時）

次	時	学習活動・内容	指導のねらい	ICT	評価			
					知	技	思	主
一	1	○オリエンテーション ・目標の記録を設定する。 ・試技を行う。	単元の課題及び学習の流れを理解し、目標記録を設定したり、競技規則を知ったりする。	(a)	①			⑧
	2	○基本練習Ⅰ ・「助走」「踏み切り」「着地」のドリル練習を行う。	手本の動きから、「助走」「踏み切り」と「着地」の動きのポイントを見つける。	(a)	①			
	3	○基本練習Ⅱ ・「空間動作」のドリル練習を行う。	手本の動きから、「空間動作」の動きのポイントを見つける。	(a)	①			
	4 構	○課題練習Ⅰ（空間動作） ・ペアで練習を行う。 ・ペアで相互の動きのよさ、課題を見つける。	自己や仲間の「空間動作」の動きのよさや課題を見つけ、仲間に伝える。	(a) (あ) (い)		③	④	⑦
二	5	○中間記録会 ・中間記録会で自己記録に挑戦する。 ・動画撮影を行う。	跳躍の様子を動画で撮影し、自己のフォームを振り返る。	(あ)			④ ⑤	⑥
	6	○課題練習Ⅱ（課題選択） ・ペアで練習を行う。 ・フォームの改善を図る。	課題「助走」「踏み切り」「空間動作」を選択し、課題を解決する。	(a) (あ) (い)		② ③	④ ⑤	⑦
	7	○課題練習Ⅲ（課題選択） ・ペアで練習を行う。 ・目標の高さに挑戦する。	課題「助走」「踏み切り」「空間動作」を選択し、課題を解決する。	(a) (あ) (い)		② ③	④ ⑤	⑦
三	8	○記録会 ・記録会で自己記録に挑戦する。 ・動画撮影を行う。	単元を振り返り、学習状況を自己評価する。	(あ)				⑥

*活用するコンテンツ等：(a) NHK「はりきり体育ノ介：走り高跳び」

*活用する学習支援ソフト：(あ)ロイロノート（動画撮影、動画再生）

(い)ロイロノート（カード）

6 本時 令和6年6月6日(木) 第一次4時(4/8) 第1校時 体育館

(1) 本時の指導観

前時までに、「助走」「踏み切り」「空間動作」「着地」の基本的な練習を行った。跳び方は理解しているが、何が「できているのか」「できていないのか」、自己の状態を把握できている生徒は少ない。そこで、本時では「空間動作」の振り上げ脚に着目し、ペア学習において課題解決に向けて教え合い、仲間の動きのよさや課題を伝えることができることを主眼におく。

はじめに、つかむ段階では前時の振り返りを行い、振り上げ脚の技術のポイントを確かめる。また、お手本の動画を視聴し正しいフォームのイメージをつかむ。

次に、ひろげる段階では、振り上げ脚の動きのよさや課題を確かめるために動画撮影を行う。その後、動画を視聴しペアの動きのよさや課題をチェックリストで評価する。さらに、ペアで仲間の動きのよさや課題を具体的に伝えながら練習する。

最後に、チェックリストの再評価を行い、ペアにカードを送る。ペアの評価をもとに、気づいたことや課題と感じたこと等を振り返り、学級で共有する。

(2) 本時の主眼

空間動作(振り上げ脚)の正しい動きのポイントを参考に、ペア練習において仲間の課題やできばえを伝えることができる。【思考力・判断力・表現力】

(3) 準備

高跳びセット(バドミントン支柱、洗濯ハサミ、毛糸、マット)、ホワイトボード、大型提示装置、教師用タブレット端末、生徒用タブレット端末、学習プリント

(4) 本時の学習過程

過程	めあて・まとめ 学習活動・学習内容	指導上の留意点(○)・評価(◇)	形態	配時
つかむ	1 準備運動を行う。 ・ラジオ体操、補助運動(8の字跳び)	○正しく、大きな動きで準備運動ができているか確認するとともに、大きな声で号令をかけ、意欲的に活動できるように、声をかける。	一斉	15
	2 前時を振り返り、本時の学習内容とめあてをつかむ。 めあて：技術のポイントをもとに仲間に振り上げ脚の動きのよさや課題を具体的に伝えよう。 ・お手本動画の視聴 ・技術のポイント(板書計画参照) ・教え合いのポイント(板書計画参照)			
ひろげる	4 動画撮影を行う。 ・役割分担(試技・録画)一人(2分) *バーの高さを選ぶ 80/90/100	○動きのよさや課題を把握するために、ペアで役割分担をして動画を撮影する場を設定する。	ペア	5
	5 アドバイスタイトム ・動画を視聴し、チェックリストに記入 ・相互に動きのよさや課題を伝える	○ペアに動きのよさや課題を具体的に伝えられるように、チェックリストを活用し共有できるようにする。 ○見る視点やつまずきの事例を確認する。	ペア	8
	6 ペア練習(空間動作) ・アドバイスをもとに課題解決練習 *バーの高さを選ぶ 80/90/100 *残り3分でバーの高さを(3~5cm/分)上げる チャレンジ課題 ・抜き足…胸まで振り上げる 回しながら振り下ろす	○アドバイスを参考に課題を解決するための練習となるよう声をかける。 ○必要であれば、動画の撮影と視聴を行うよう指示をする。 ◇学習プリント【思】 授業の様子及び、記入した記述から、仲間の動きのよさや課題を具体的に伝えることができているかを評価する。 A:動きを観察し、動きのよさや課題を根拠をもって伝えようとしている。 B:動きについて、捉えたことを伝えようとしている。 C:自分が試技したり、見たりの様子のみを伝えている。	ペア	12

まとめる	7 学習を振り返り、まとめを行う。 ・チェックリストで振り上げ脚を再評価 ・振り返りの記入	○チェックリストの再評価を行い、ペアに送る。 ○めあてが達成できたかを問いかけ、気づいたことや課題と感じたこと等を振り返り、ロイロノートアンケートに記入するよう促す。 ○技術が身についたり、向上したりすることを実感できたかを問いかけ、学級で共有する。	一斉	10
	まとめ：技術のポイントにそって動きを見取することで、動きのよさや課題を相手に伝えることができた。			

<板書計画>

めあて：技術のポイントをもとに、仲間に「振り上げ脚」の課題やできばえを具体的に伝えよう。

<振り上げ脚のポイント>

- ①めあて ◆「へ」の字 →膝を少し曲げる
- ③動画撮影 *脚が上がりやすい
- ④アドバイスタイム →足の裏を見せる
- ⑤ペア練習 *脚の先が下がらないように
- ⑥振り返り

<教え合いのポイント>

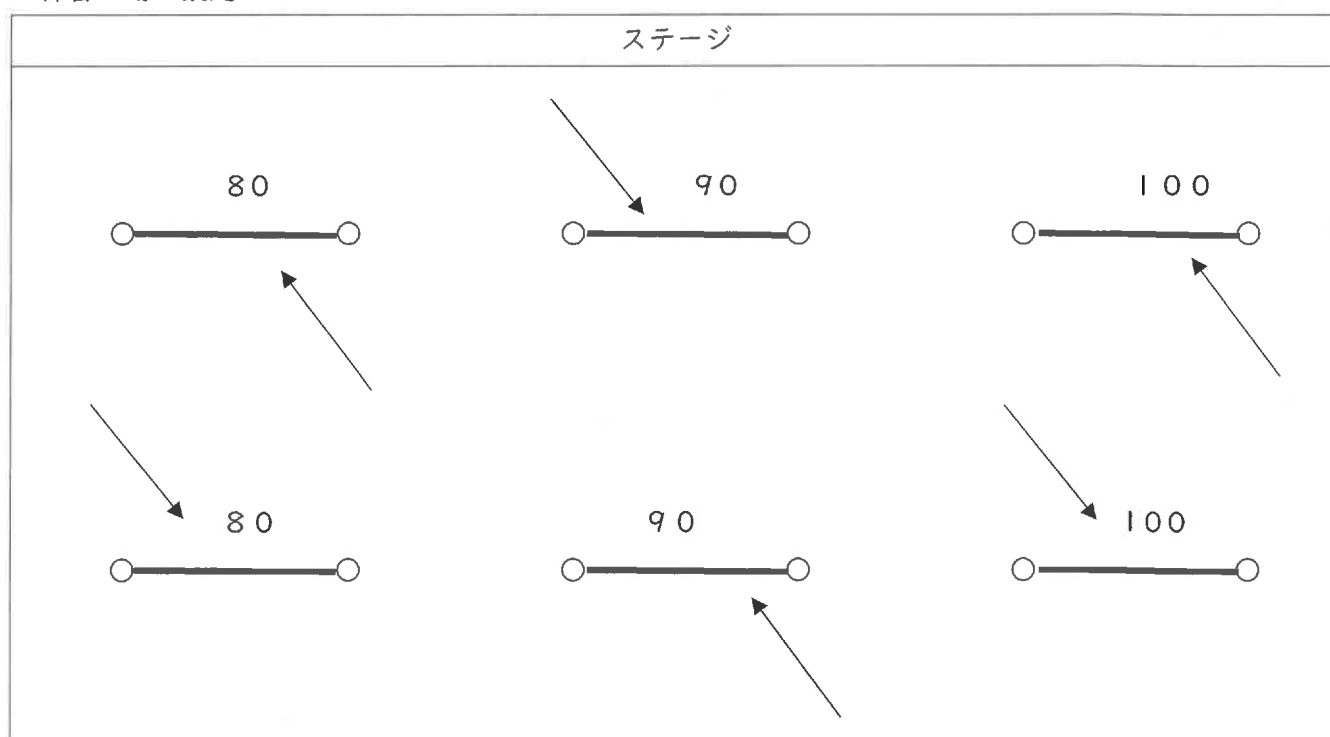
- どこが（体の部位）
- どのように（形）
- どこまで（位置）
- 伝える（言葉、身振り、動画）
- 1回に1つ

チャレンジ課題

- 抜き脚 →胸まで振り上げる
- 回しながら振り下ろす

まとめ：技術のポイントにそって動きを見取することで動きのよさ課題を相手に伝えることができた。

<練習の場の設定>



授業のまとめ

真子 幸太郎

1 本時の主眼

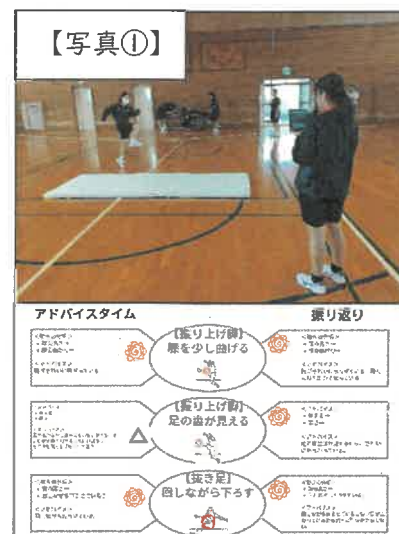
空間動作（振り上げ脚）の正しい動きのポイントを参考に、ペア練習において仲間の課題やできばえを伝えることができる。思・判・表

2 授業の実際

○ 主眼の達成度に関して

つかむ段階では、お手本動画を視聴し正しいフォームのポイントを確認した。動画で確認することで、体の「どの部分を」「どのように動かせばよいのか」をつかむことができた。

ひろげる段階では、振り上げ脚の動きのよさや課題を見つけるために、ペアで動画撮影と動きの評価を行った【写真①】。はじめに、試技者と観察者の役割を決め、タブレット端末で動画を撮り、動きのよさや課題を確認した。次に、試技とアドバイスを相互に行い、練習に取り組んだ。動きやアドバイスのポイントを示したことで、仲間の課題やできばえを具体的に伝えることができていた。そのため、主眼の達成度は、80%程度だと考える。



まとめる段階では、ペア練習後の振り上げ脚のフォームの確認を「チェックリスト」を用いて行い、Web アンケートに自己評価を記入し、ペアで振り返りを行った。

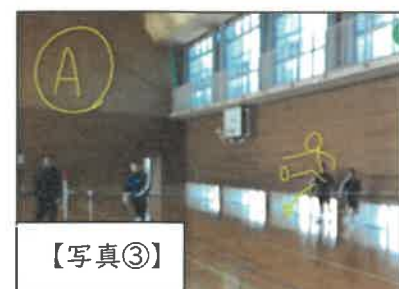
○ ICT の活用について 交流・動きの可視化・指導と評価の一体化

ペアの動きのよさ課題を相手に伝えるために、タブレット端末で動画を撮影して動きを見取り、イメージを可視化して共有することで、動きのよさや課題を見つけ、ペアに具体的に伝えることができていた【写真②】。

また、授業の振り返りを Web アンケートにすることで、生徒の達成状況をその場で把握することができた。



さらに、ロイロノートで提出された走り高跳びの動画を授業後に教師が評価を行った【写真③】。授業後に行うことで、全員の技能の状態を確認することができた。動画なのでスロー再生したり、繰り返して見たりすることで正確に評価することもできる。評価した動画を次時に生徒に配付したことで、生徒も評価や課題を確認して練習に取り組むことができていた。



3 研究協議の意見交流から

- ・練習や教え合い活動では、タブレット端末を活用しながら、ペアの動きのよさや課題を伝えながら、活発に交流することができていた。ただし、タブレット端末の操作に時間をとられ活動時間が少ない。課題を解決するための練習時間の確保が課題である。

4 成果と課題

○練習や教え合い活動では、動きの見取りやアドバイスを可視化することで、ペアのよさや課題を具体的に伝えることができていた。イメージを可視化して共有することで具体的に伝える上で有効であった。

○生徒が提出した動画を評価することは、教師が動きを見取る上で有効であった。また、評価した動画を生徒に返却することで、生徒も自分の評価を知ることができ、課題を克服する上で有効であった。

●仲間の動きのよさや課題を伝えることはできていたが、課題を克服するための練習が不十分であった。よさや課題を見つけるだけでなく、それを克服するために練習する時間の確保に課題がある。

指導・助言者一覧

教科	所属	職名	氏名
国語科	大野城市立大野東中学校	教諭	松 尾 紀 子 先生
数学科	春日市立春日西中学校	教頭	仲 矢 龍 介 先生
社会科	大野城市立大野中学校	教頭	森 本 康 資 先生
理 科	大野城市立大野東中学校	主幹教諭	小 峠 博 亮 先生
外国語科	大野城市教育委員会	総括指導主事	山 川 周 作 先生
音楽科	春日市立春日西中学校	主幹教諭	佐々木 保 高 先生
技術科	大野城市立大野東中学校	教諭	山 内 瑛 二 先生
家庭科	大野城市立大野東中学校	教諭	山 川 真紀子 先生
保健体育科	大野城市教育委員会	主幹指導主事	平 井 源 樹 先生
自立活動	大野城市立大利中学校	教頭	村 岡 陽 子 先生

主な引用・参考文献

- 「中学校学習指導要領」（文部科学省）
- 「『主体的に学習に取り組む態度』の学習評価完全ガイドブック」（明治図書）
- 「デジタル×アナログ 学びのハイブリットデザイン」（西村陽介 明治図書）
- 「未来を拓く ICT 教育の理論と実践」（小原豊・北島茂樹編著 東洋館出版社）

研 究 同 人

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
校長	藤井 浩彦	國分 慎二	國分 慎二
教頭	古川 裕士	古川 裕士	岩本 義忠
主幹教諭	真子 幸太郎 山本 義高	真子 幸太郎 山本 義高	真子 幸太郎 田中 智洋
国語	柴田 文子 安元 雅子 園田 克利	安元 雅子 園田 克利	安元 雅子 園田 克利
社会	佐藤 悠史	佐藤 晃輔	佐藤 晃輔 清水 凜
数学	末次 利恵 日原 洋一 田中 智洋 黒崎 紗希	末次 利恵 日原 洋一 田中 智洋 黒崎 紗希	末次 利恵 日原 洋一 黒崎 紗希 中森 文博
理科	呑山 真基 廣瀬 楽	呑山 真基 廣瀬 楽	呑山 真基 廣瀬 楽 緒方 一也
音楽	徳永 雅子 瀬谷 亮子	徳永 雅子 瀬谷 亮子	瀬谷 亮子
美術	林 直人	林 直人	田渕 文明
保健体育	藤井 隆史	藤井 隆史	藤井 隆史
技術・家庭	今福 豊久 鷺 朝菜	今福 豊久 鷺 朝菜	今福 豊久 鷺 朝菜
外国語	山田 冬樹 田中 雅乃織 松本 光華（育休）	山田 冬樹 田中 雅乃織 松本 光華（育休）	松本 光華 田中 雅乃織 後藤 賢次郎
養護教諭	福島 千絵美	天本 千恵	天本 千恵
主事	堤 彩永	堤 彩永	堤 彩永

おわりに

本年度は、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、出場する選手や関係者だけでなく、応援する人々の盛り上がりが多く報道されていました。また、近年、日本選手団の活躍が注目され、多くの種目で選手たちが表彰台に上がる姿を見ることができました。日本のスポーツ界では、これまでの指導方法が様々な視点から見直されていき、多種多様な指導方法を取り入れ、その結果として素晴らしい成果を挙げています。

教育界でも「令和の日本型学校教育」「GIGA スクール構想」「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」といった教育改革が行われています。特に、ICT の活用に関しては、急激なスピードで学校教育の中に浸透しています。

本校では、令和4年度から研究主題を『生徒の主体的な学習活動を促す指導』、副主題を『「わかった・できた」を実感できる ICT の活用と振り返りの充実を通して』として研究に取り組んでまいりました。

ICT を活用した「一斉学習」「個別学習」「協働学習」を学びの場に設定することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しました。また、振り返りの充実として、「書く活動」と「交流活動」を取り入れ、学習内容を整理したり、付加・修正・強化を図ったりして、学力の向上及び次の学習意欲へとつなげていきました。

これまでの研究の一端を公開することで、御参観いただいた方々からの貴重な御意見をもとに、「課題解決に向けて粘り強く取り組み、自己の考えを柔軟に付加・修正・強化していくことで、創造的思考を働かせたり、教科のよさを見いだしたりする活動」と定義づけした「主体的な学習活動」の追究を今後も継続してまいりたいと思います。

結びに、本校の研究をすすめるにあたり、熱心な御指導と丁寧な御助言をいただいた、福岡県教育庁福岡教委事務所、大野城市教育委員会をはじめとする関係機関の皆様方に、この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後とも御指導・御助言のほど、よろしくお願いいたします。

令和6年11月19日

大野城市立御陵中学校
教 頭 岩本 義忠

